

第26期考古学セミナー（2024年度）

—やまがたの遺跡の中のカミ・ホトケ—

第3回講座

講義⑥

遺跡の中のカミ・ホトケ —米沢市の調査事例を中心に—

米沢市教育委員会

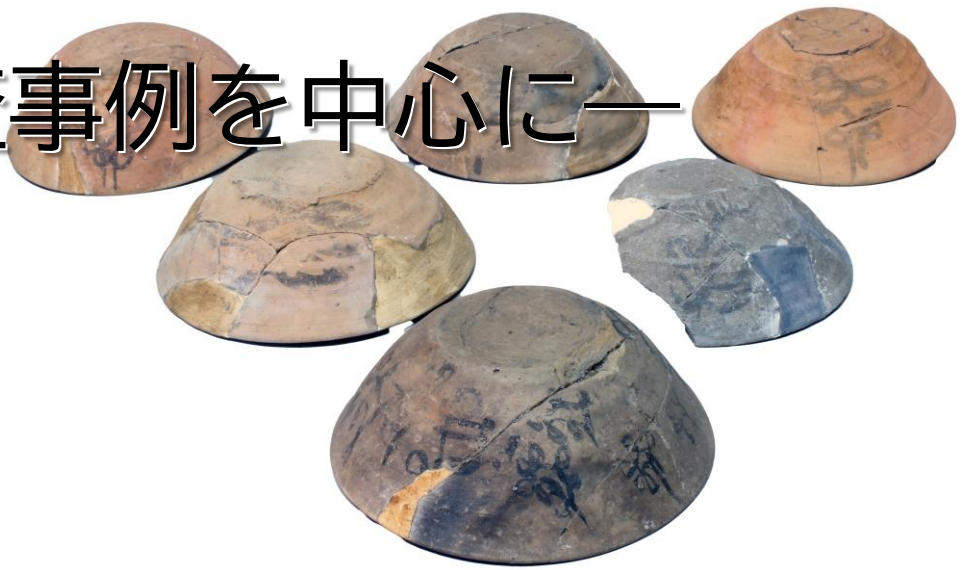
佐藤 公保 氏

令和6年10月6日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

遺跡の中のカミ・ホトケ

—米沢市の調査事例を中心に—





遺跡位置図

①古志田東遺跡

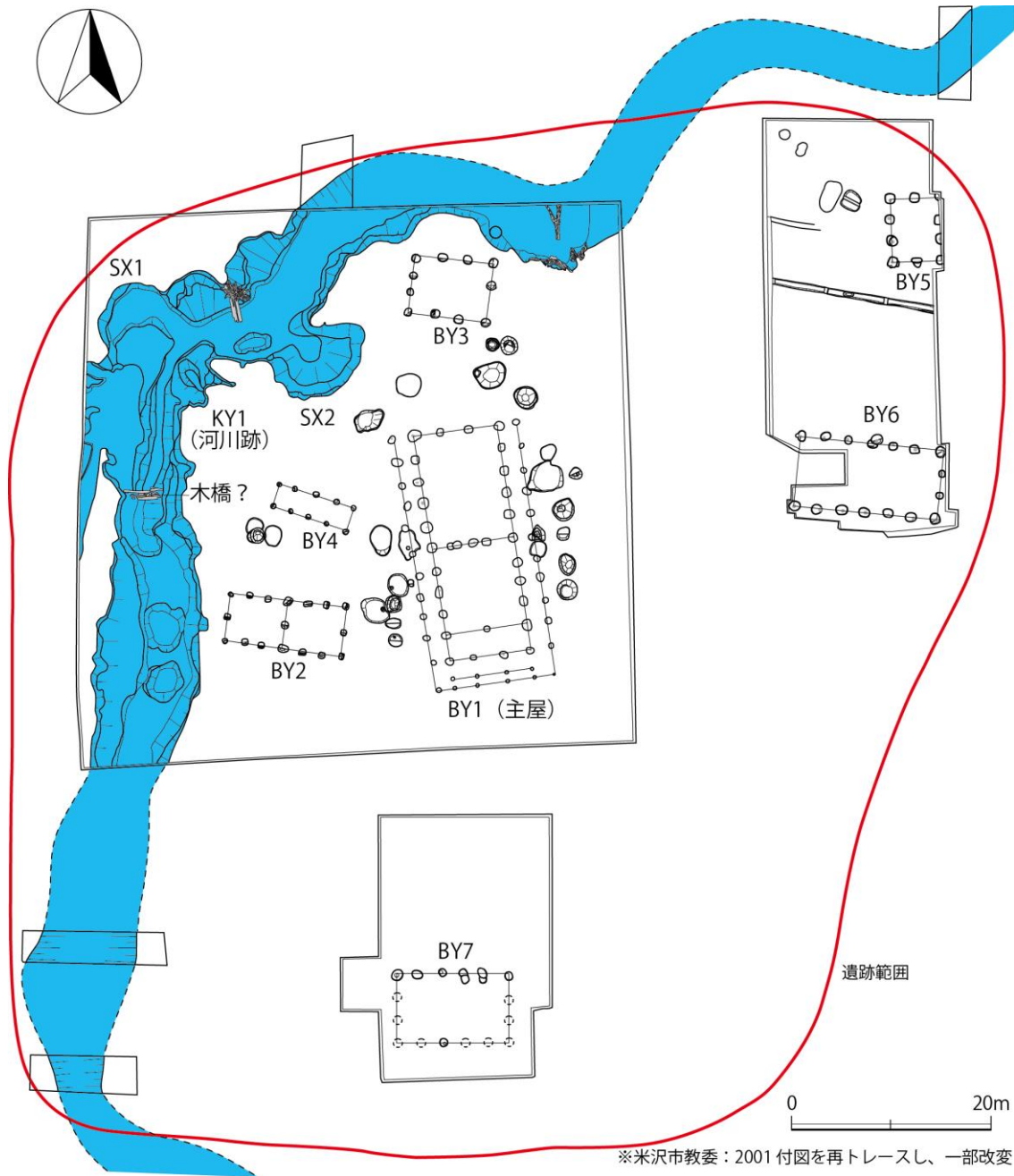
米沢盆地の南端、標高257mの松川（最上川）扇状地の扇央から末端部に立地します。平成9・10年度の林泉寺団地造成工事に伴い発見され、平成11年度に発掘調査を実施しています。

平安時代中期の豪族居宅跡と考えられ、船の係留施設を伴う河川跡から多量の土器や木製品類が多数出土。墨書土器や木簡などの文字資料が多く、その内容から多数の人夫を使って舟で米などを運ぶ有力者の姿が浮かび上がってきます。

平成12年に国の史跡に指定され、現在は古志田東史跡公園として整備されています。



古志田東史跡公園（南から）



古志田東遺跡遺構配置図



▲挽き物類（椀・盆・坏）

古志田東遺跡出土遺物



▲ 丸木弓



▲ 杓



▲ 独楽



▲ 机脚部



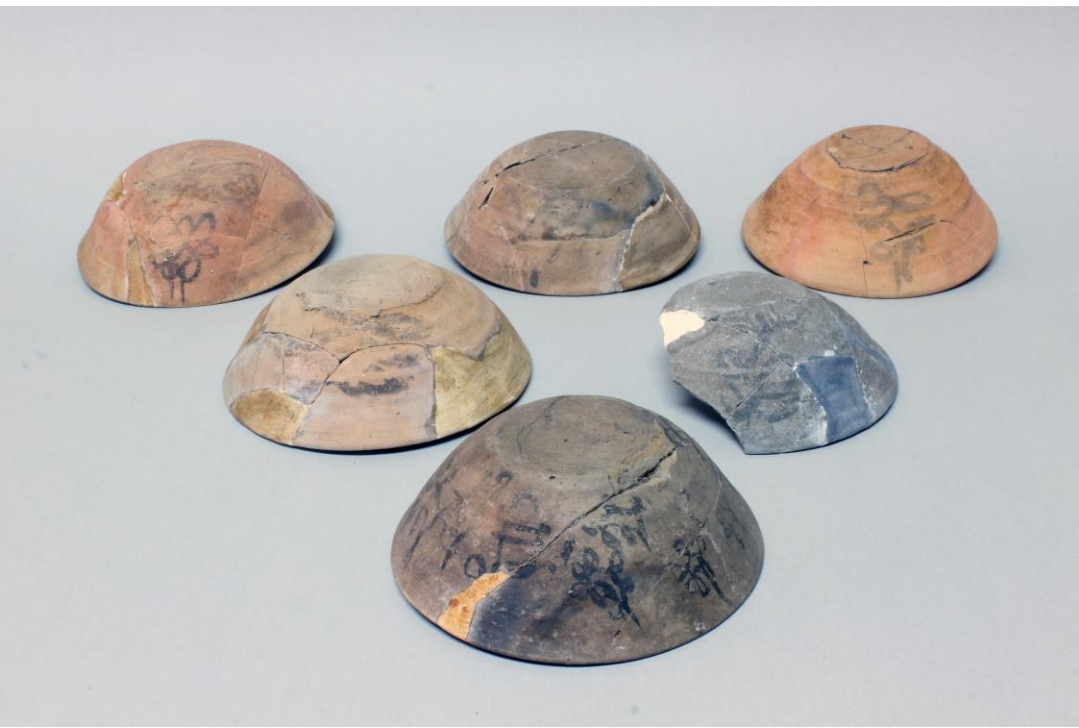
▲ 鏡



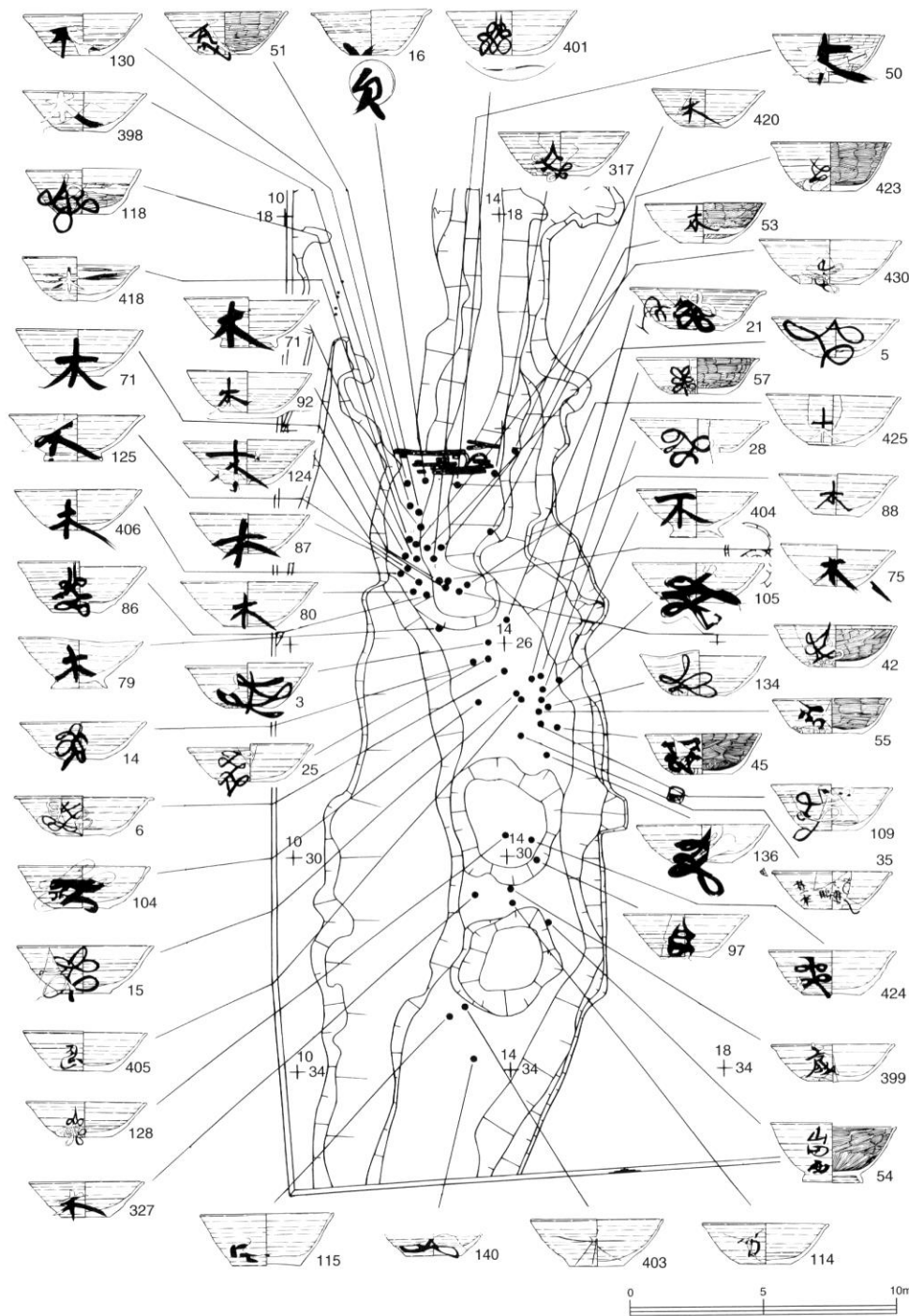
▲ 物指



1 [蜘蛛]

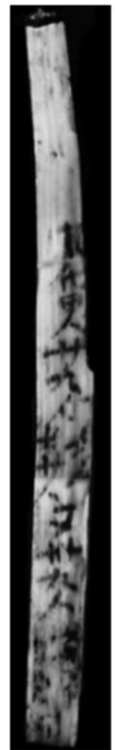


古志田東遺跡出土墨書土器



有宗

第1号木簡(題箋軸)



田人廿九人
女廿一人
又三十九人
男八人

第2号木簡



船津運十人

第13号木簡



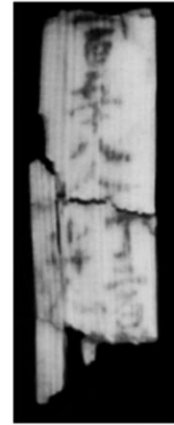
狄帯建一斛

第12号木簡



三十人
男廿八人
小二人

第3号木簡



二百五十八人
小廿人

墨書土器の出土状況と木簡



古志田東遺跡景觀復元図

②大南遺跡

米沢市北東部の浅川地区に所在する遺跡で、標高227mの天王川（梓川）右岸の自然堤防上に立地します。米沢と高畠を結ぶ街道筋にあって、天王川の渡河点を押さえることができる交通や物流の要衝に位置する。

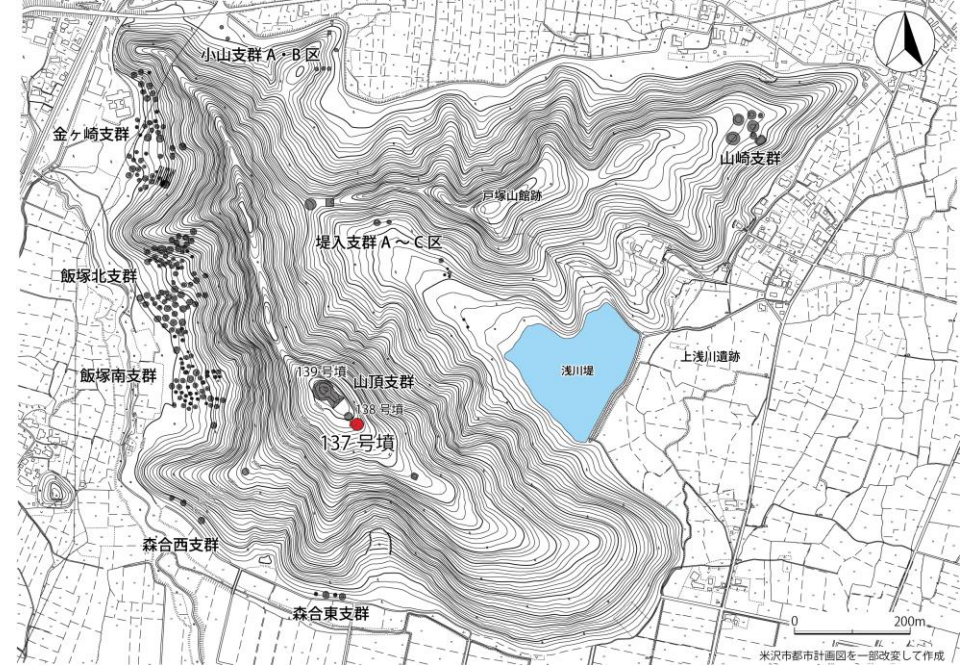
平成28・29年度に、置賜広域行政事務組合の浅川最終処分場整備事業に伴う発掘調査を実施し、平成30・令和元年度で報告書を作成しました。調査面積は25,316㎡です。

調査の結果、縄文・古墳～近世の複合遺跡であることが判明し、特に奈良・平安時代と中世（鎌倉～戦国時代）で大きな発見がありました。





大南遺跡・上浅川遺跡位置図



戸塚山古墳群全体図



戸塚山古墳群山頂支群

米沢市街地方向

天王川

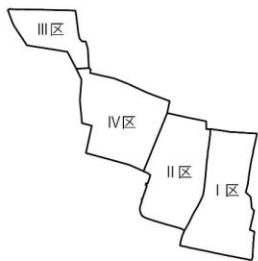
浅川最終処分場

平成29年度

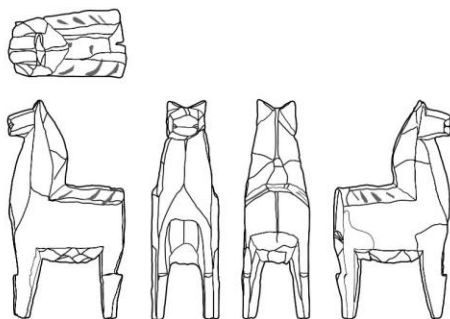
平成28年度

発掘調査箇所全景（東から、平成28年度撮影）

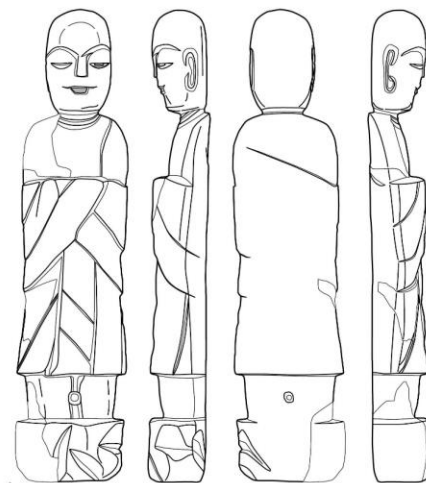




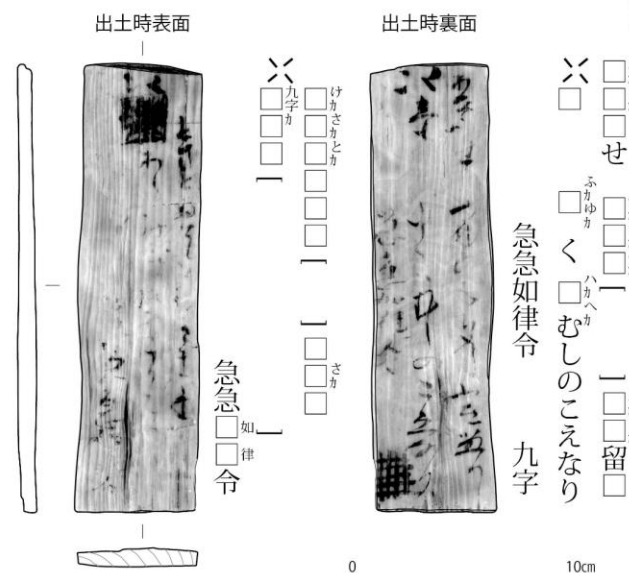
調査区区分割図



SD5338溝跡出土 馬形木製品

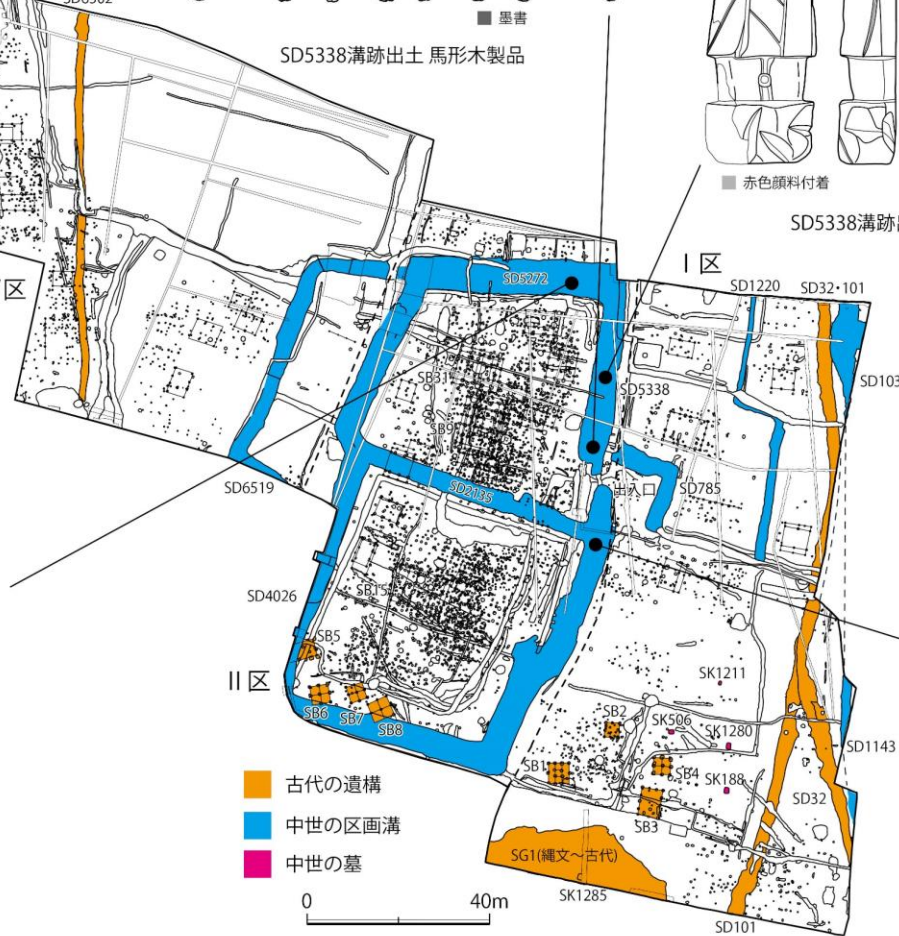


SD5338溝跡出土 僧形神立像



SD5272溝跡出土 第2号木簡

(遺物実測図:S=1/3)



- 古代の遺構
- 中世の区画溝
- 中世の墓



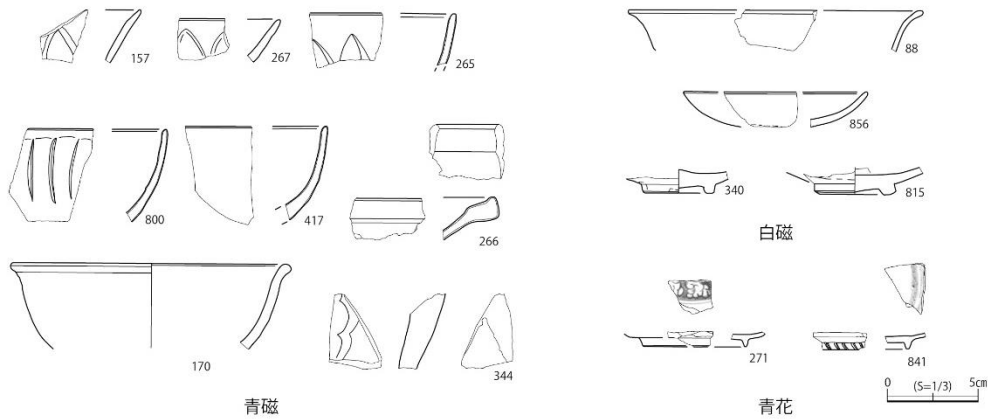
SD4026溝跡出土 第1号木簡

十八日観世菩薩

大南遺跡調査区全体図

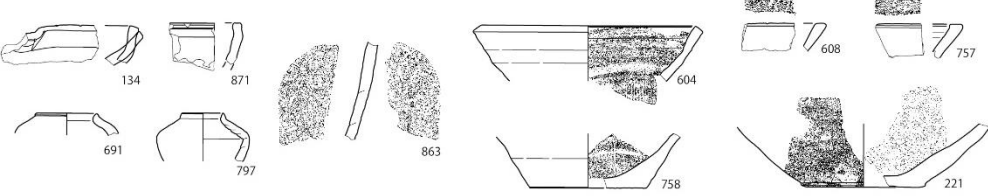


屋敷地の中心地と考えられる区画溝全景(南から撮影)



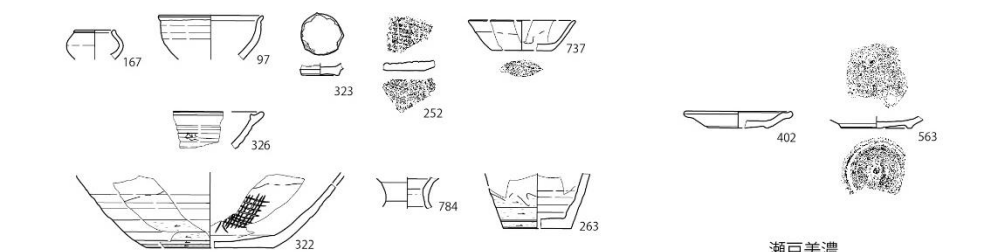
白磁

青花



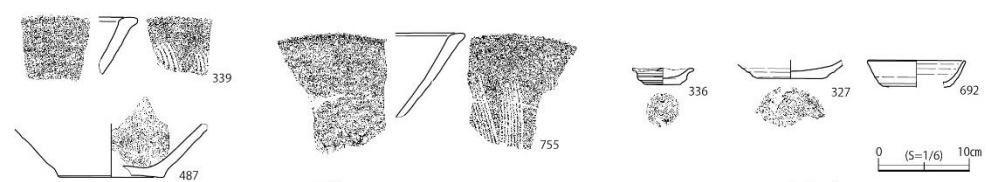
瓷器系陶器 (東北)

須恵器系陶器 (珠洲)



古瀬戸

瀬戸美濃 (大窯・志野)



瓦質土器

かわらけ



内耳土鍋



貿易陶磁



国産陶磁、瓦質・土師質土器類



内耳土鍋
出土状況



僧形神立像出土状況(東から)



僧形神像？・仏像？

滋賀県立安土城考古博物館学芸員

山下立氏のご教示

- ①僧形神像
- ②地蔵菩薩
- ③高僧・祖師像

大南遺跡出土木像の特徴

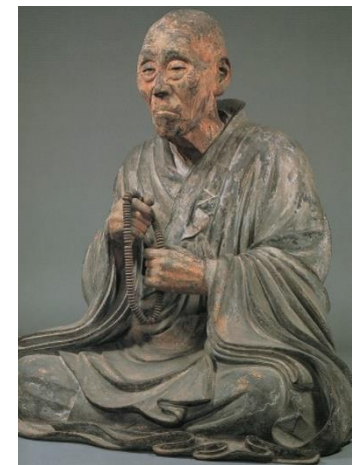
- ・剃髪されている：①・②・③
- ・耳が福耳状：①・②
- ・額に白毫がない：①・③
- ・三道相がある：①・②
- ・腕の所作が拱手をとる：①
- ・岩座風の台座：①

以上の特徴から僧形神像の可能性が高い。

ただし、様々な意匠を省略した私的な念事仏（地蔵仏）の可能性も。



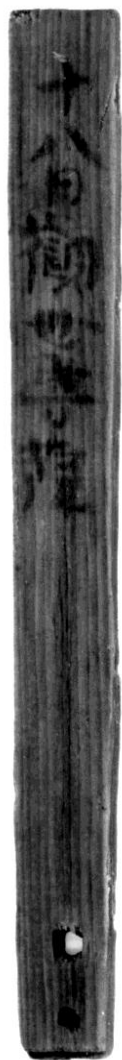
地蔵菩薩



高僧

じっさいにち

十齋日、三十日仏、観音講を示す木簡



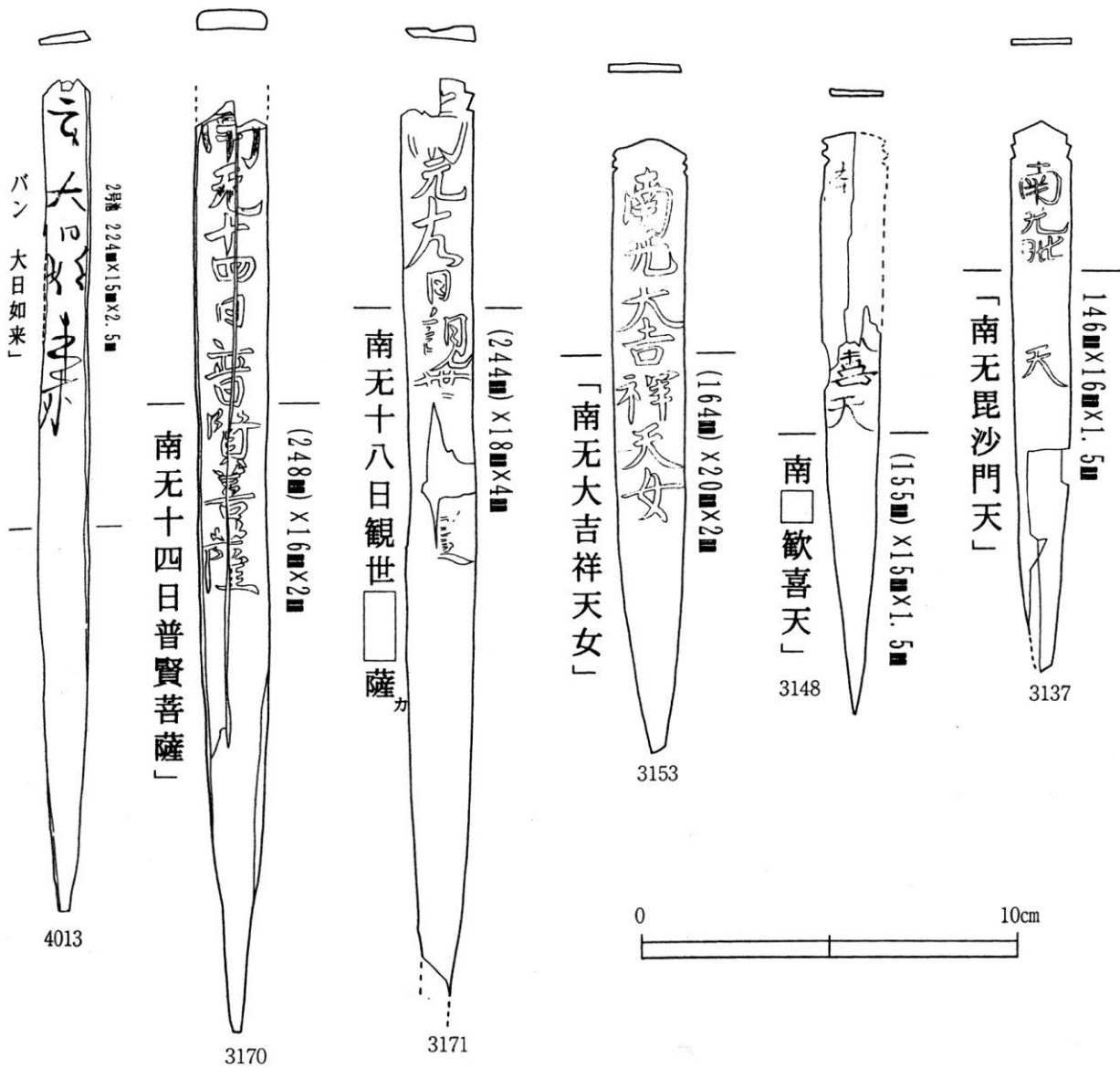
十八日観世菩薩

十齋日：十戒（不殺生、不偷盗など僧侶が守るべきもの）を分け日付にあてがい、それぞれの日に配された仏を念ずると罪が除かれる

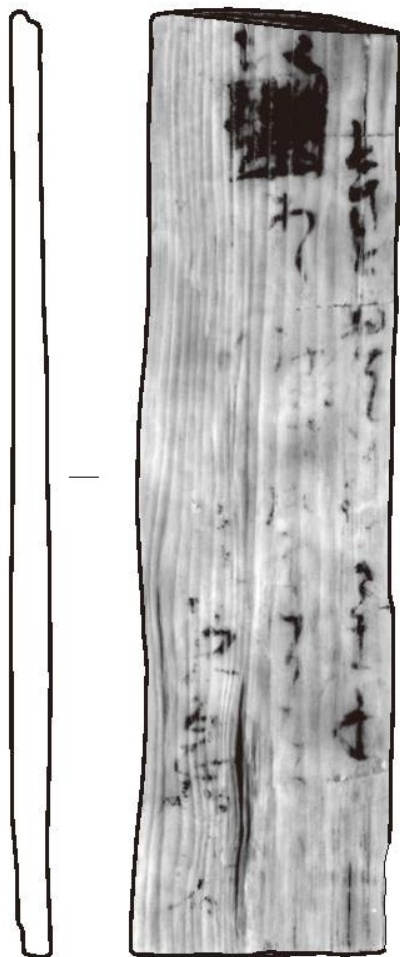
- ・ 一日 定光仏 不殺生
- ・ 八日 薬師如来 不偷盗
- ・ 十四日 普賢菩薩 不邪淫
- ・ 十五日 阿弥陀如来 不妄語
- ・ 十八日 観世音菩薩 不沽酒（不飲酒）
- ・ 廿三日 得大勢菩薩 説四衆過
- ・ 廿四日 地藏菩薩 不自讃毀他
- ・ 廿八日 毘盧舍那仏 不慳性過毀
- ・ 廿九日 薬王菩薩 不瞋心、不受悔
- ・ 卅日 釈迦如来 不謗三宝

11世紀前半に成立した『栄花物語』に十齋日の記述があり、少なくともこの頃から十齋日の信仰が行われていた。

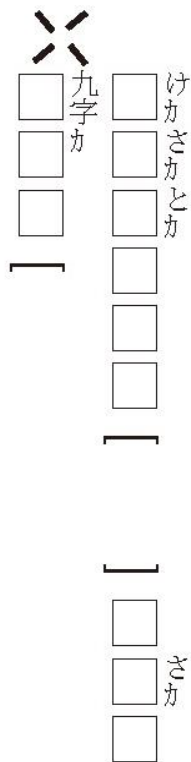
第1号木簡



出土時表面



以字点



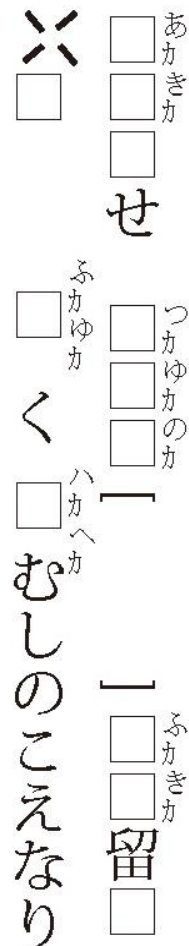
急急

如律令

出土時裏面



以字点



急急如律令

九字

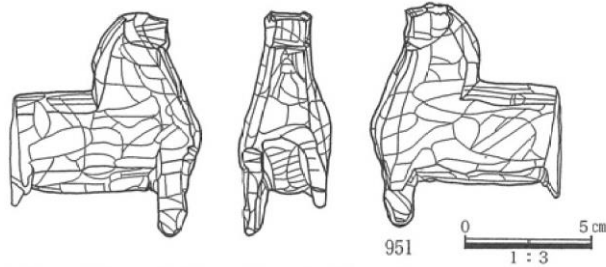
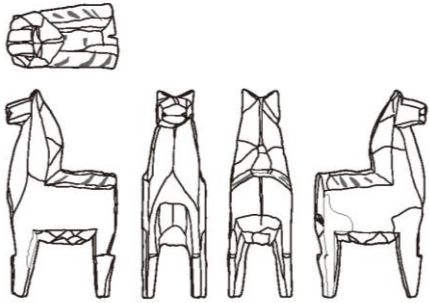


第2号木簡





大南遺跡出土馬形木製品

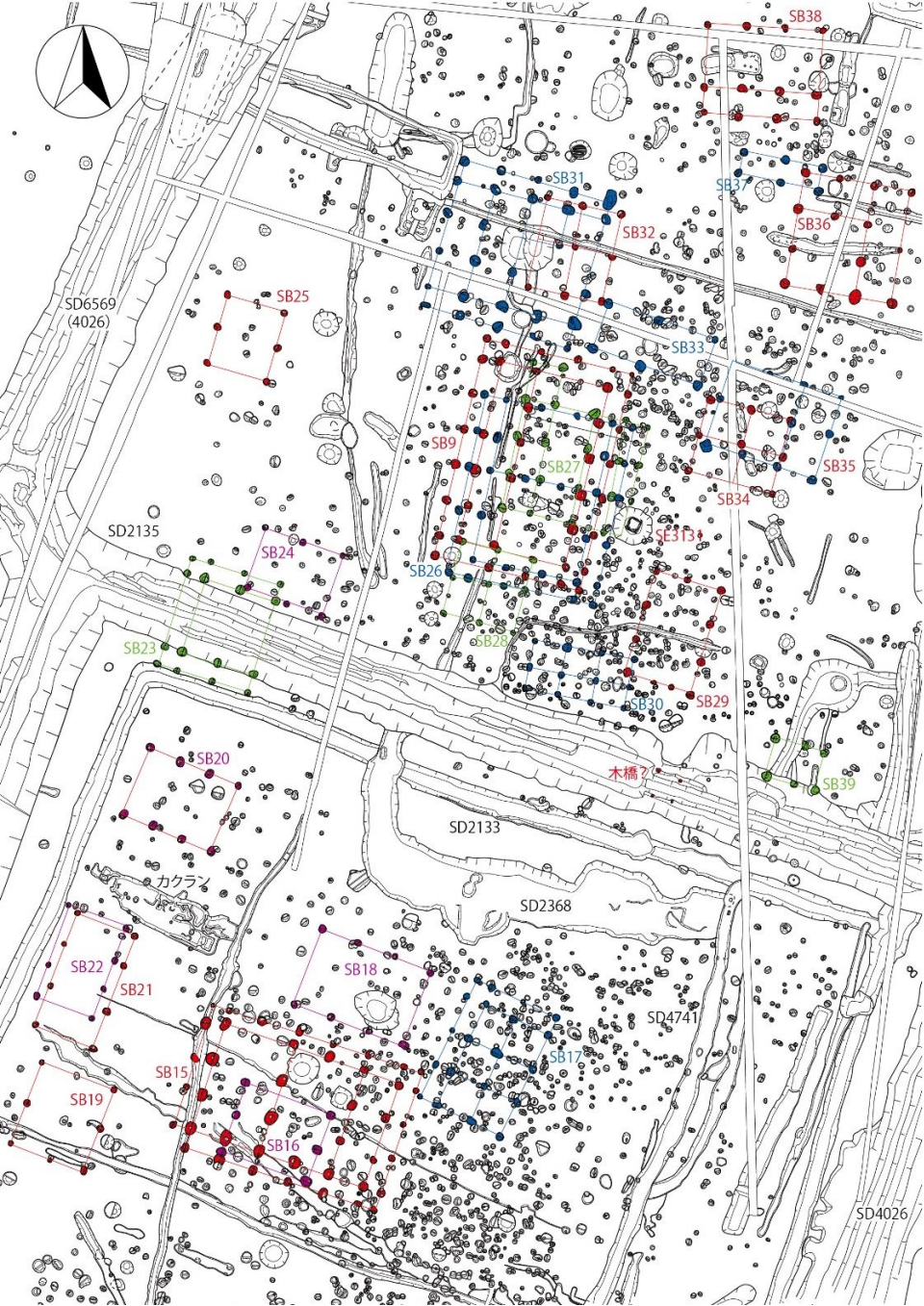


大南遺跡（中世）

鶴ヶ岡城跡（近世）

新発田城跡（近世）

中～近世の馬形木製品



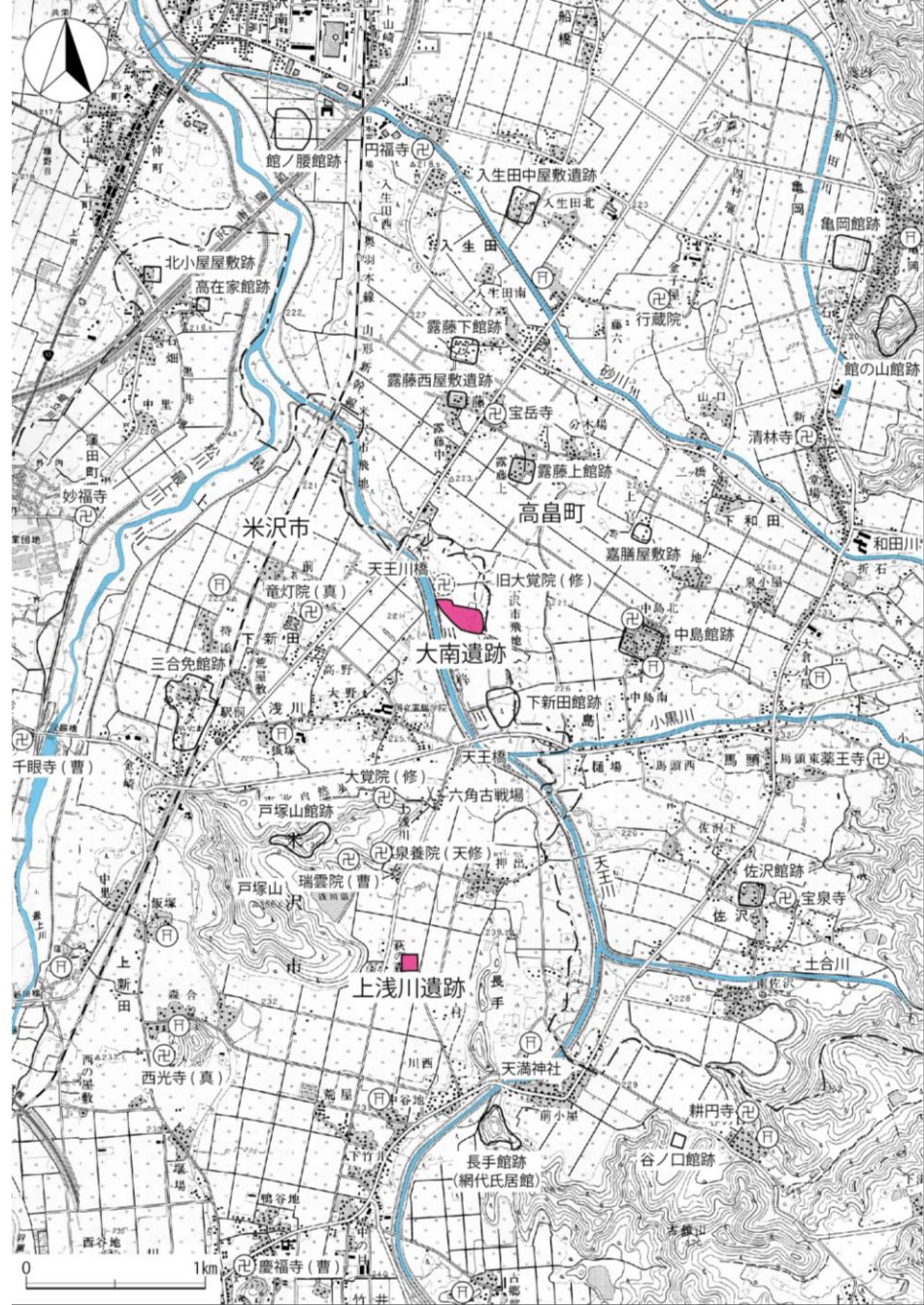
中世の掘立柱建物跡群

③上浅川遺跡

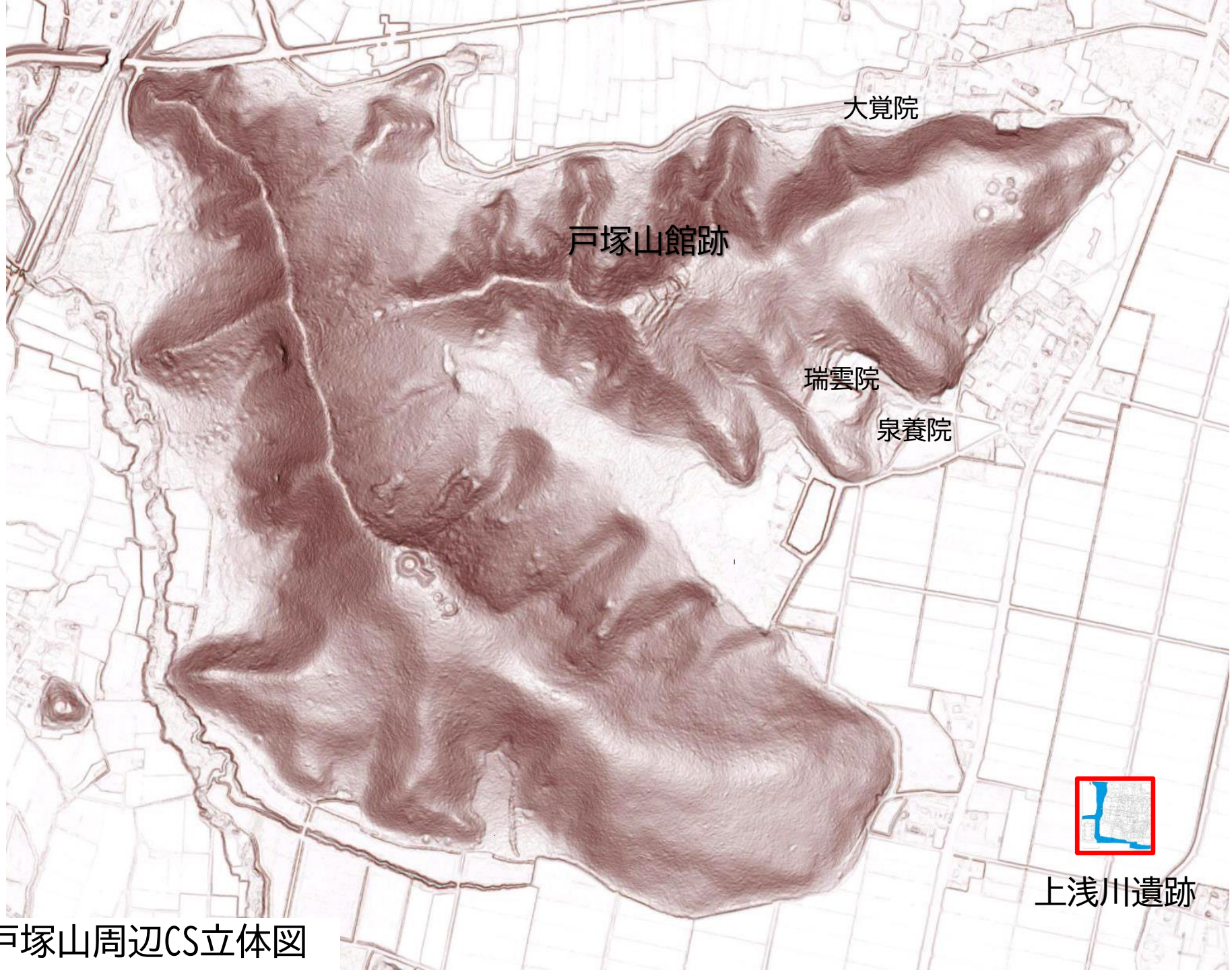
大南遺跡と同じく上郷地区に所在する遺跡で、標高230mの戸塚山南東部の低地に立地します。

これまでに3回発掘調査が実施されており、昭和59年の第1次調査で幅2.2~8m、深さ1m程度の方形の区画溝を伴う中世期の屋敷地が発見されています。

この区画溝から男性を表現したと見られる木像が出土しています。



大南遺跡・上浅川遺跡位置図



大覚院

戸塚山館跡

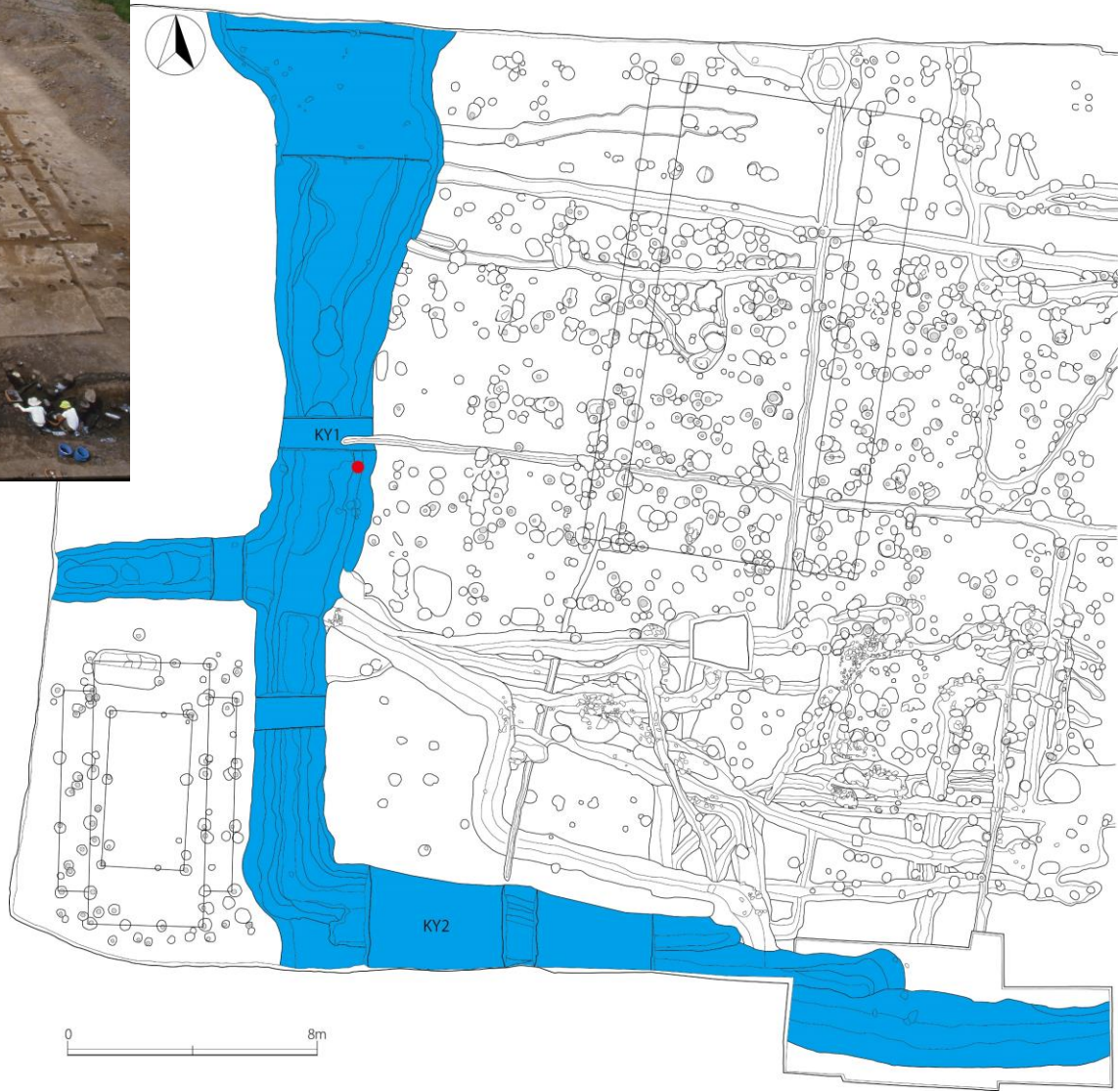
瑞雲院

泉養院



上浅川遺跡

戸塚山周辺CS立体図



上浅川遺跡調査状況

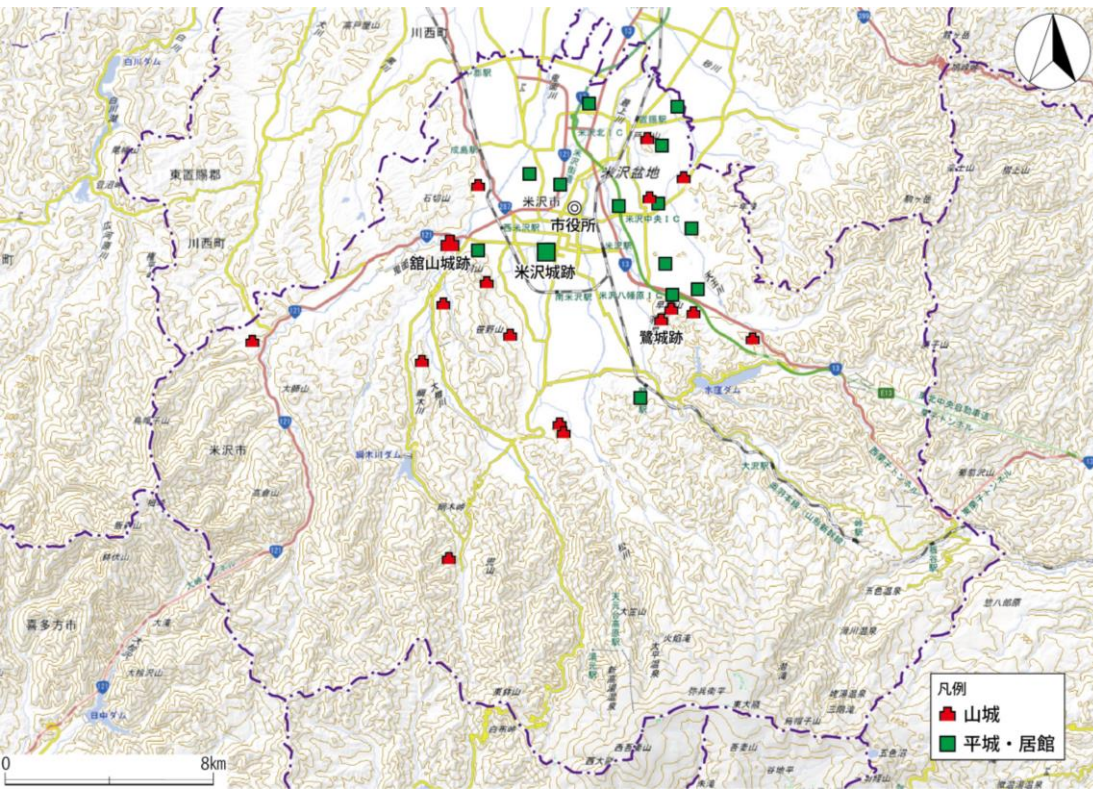


上浅川遺跡KY1溝跡出土木偶状人形（男神像）

④米沢城跡

米沢市中央部に位置する平城で、東を奥羽山系、南を吾妻の山塊によって画された米沢盆地の南部，松川（最上川）とその支流の羽黒川や鬼面川によって形成された複合扇状地の末端に立地します。

本丸付近の標高は250m です。ここは北は山形・上山，東は伊達・信夫（福島），南は会津，西は越後（新潟）につながる街道が交わる要衝です。



④米沢城跡

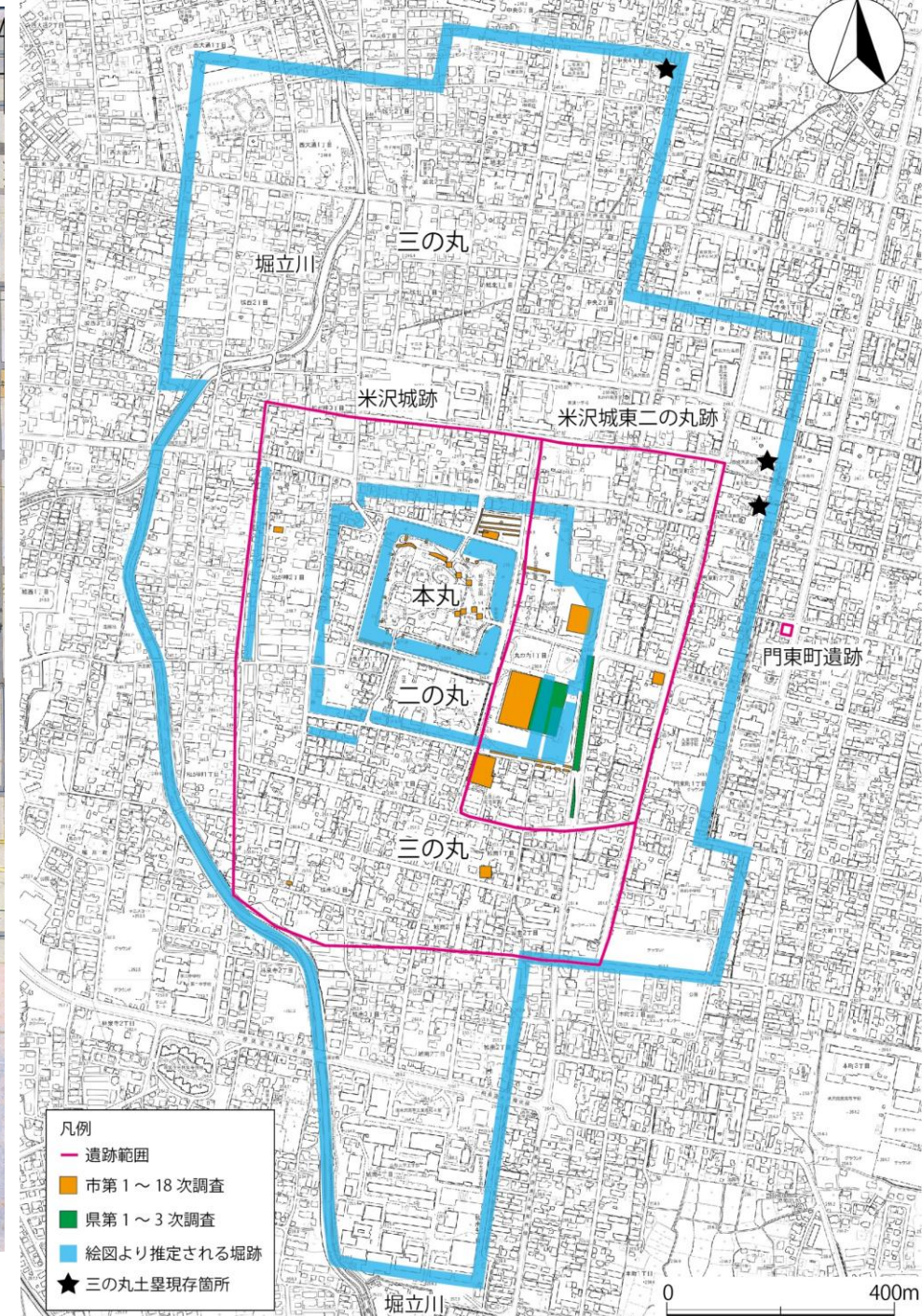
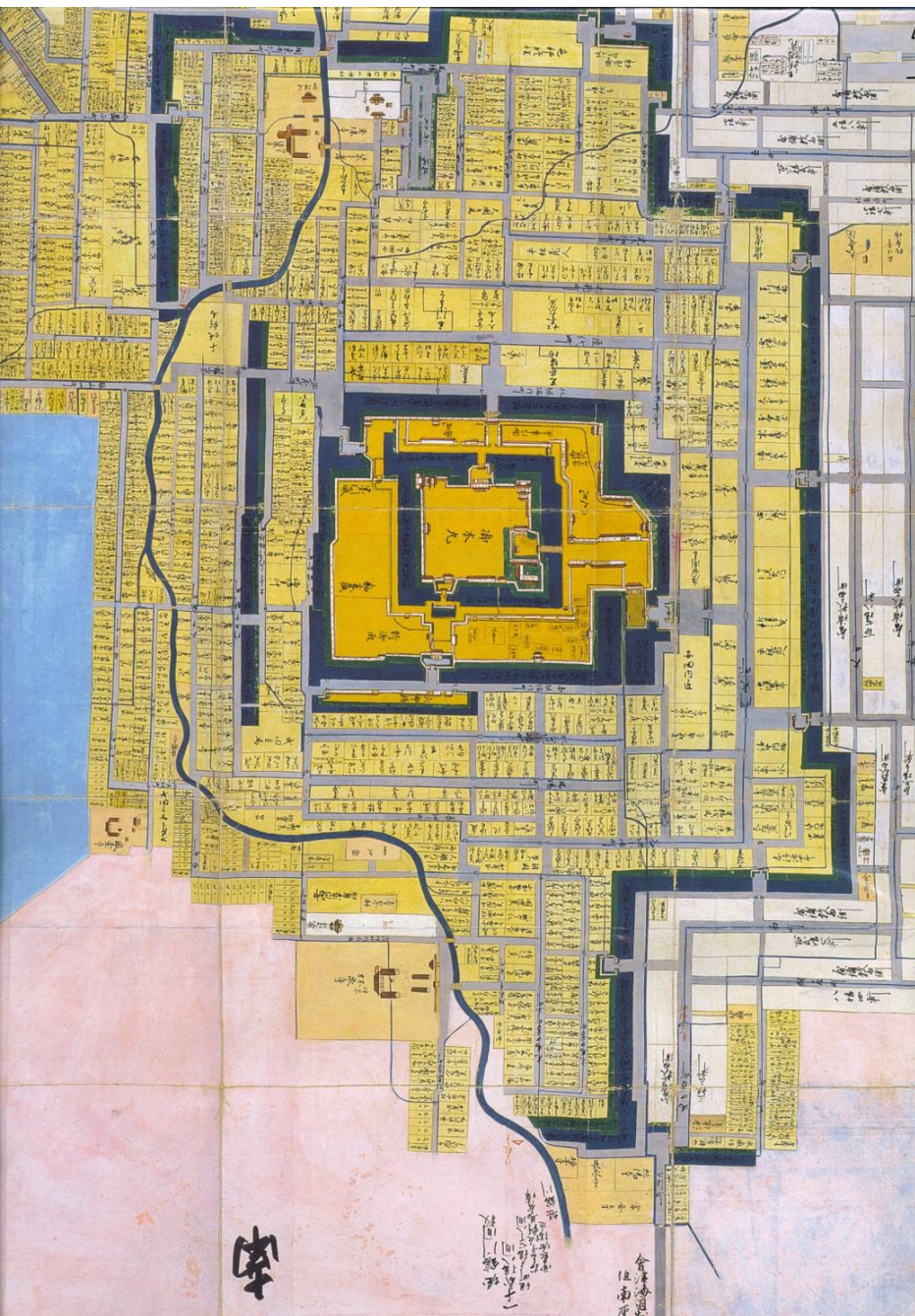
置賜郡（長井庄）の地頭長井時広により暦仁元年（1238）に築城されたとありますが、これを実証する史資料はありません。

本格的に整備されたのは、天文17年（1548）頃に伊達氏15代当主晴宗が、桑折西山城から米沢に本拠地を移した時と考えられます。以降、天正19年（1591）の奥羽再仕置により政宗が岩手沢（岩出山）へ移封されるまでの約43年間伊達氏の居城でした。

伊達氏移封後は蒲生氏郷の支城の1つとなり、氏郷は米沢城を松崎（松岬）城と改めて、重臣の蒲生郷安を城主としました。

慶長3年（1598）に蒲生氏が宇都宮へ移封されると、越後春日山より上杉景勝が120万石で会津に入部し、景勝の重臣直江兼続が米沢城主となります。

慶長5年（1600）の関ヶ原合戦で西軍側に属した景勝は、翌年の戦後処理で置賜・伊達・信夫郡の30万石に減封され、米沢城を居城とします。現在の市街地は、江戸時代に整備された城下町を基盤としています。



米沢城の範囲

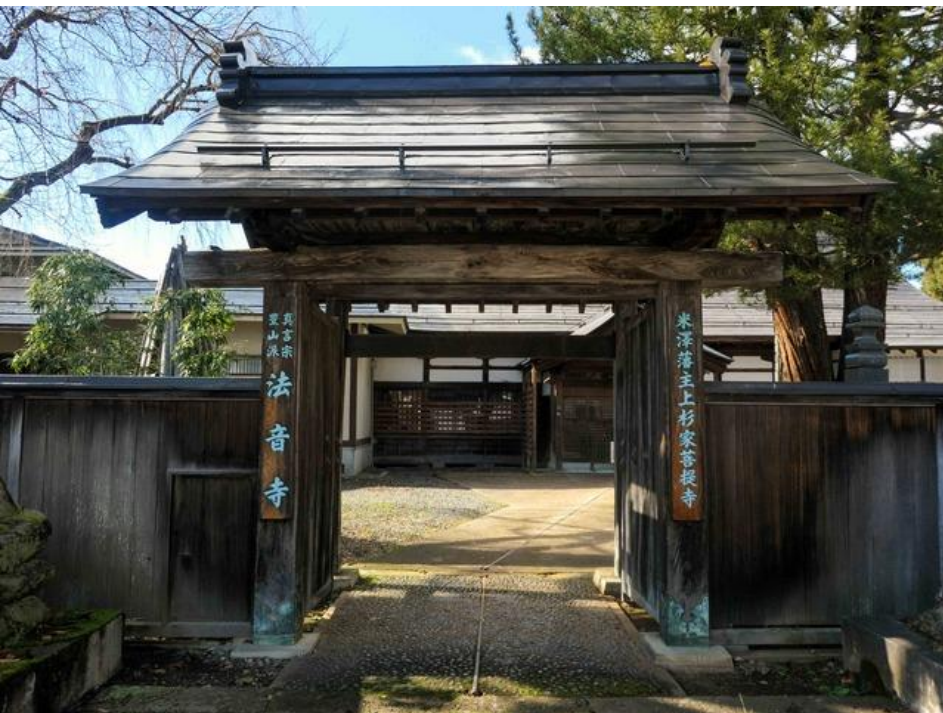


平成12年度調査区

教王院
 蓮蔵院 大乘寺
 善性院 安養院
 浄福院
 弥勒院 法性院
 宝蔵院

寛政3年（1791）御城内明細御絵図

※円明院無し



法音寺
能化衆筆頭



大乘寺（上杉神社）
能化衆次席



米沢城東二の丸跡発掘調査状況（伝国の杜建設地）



仏飯器



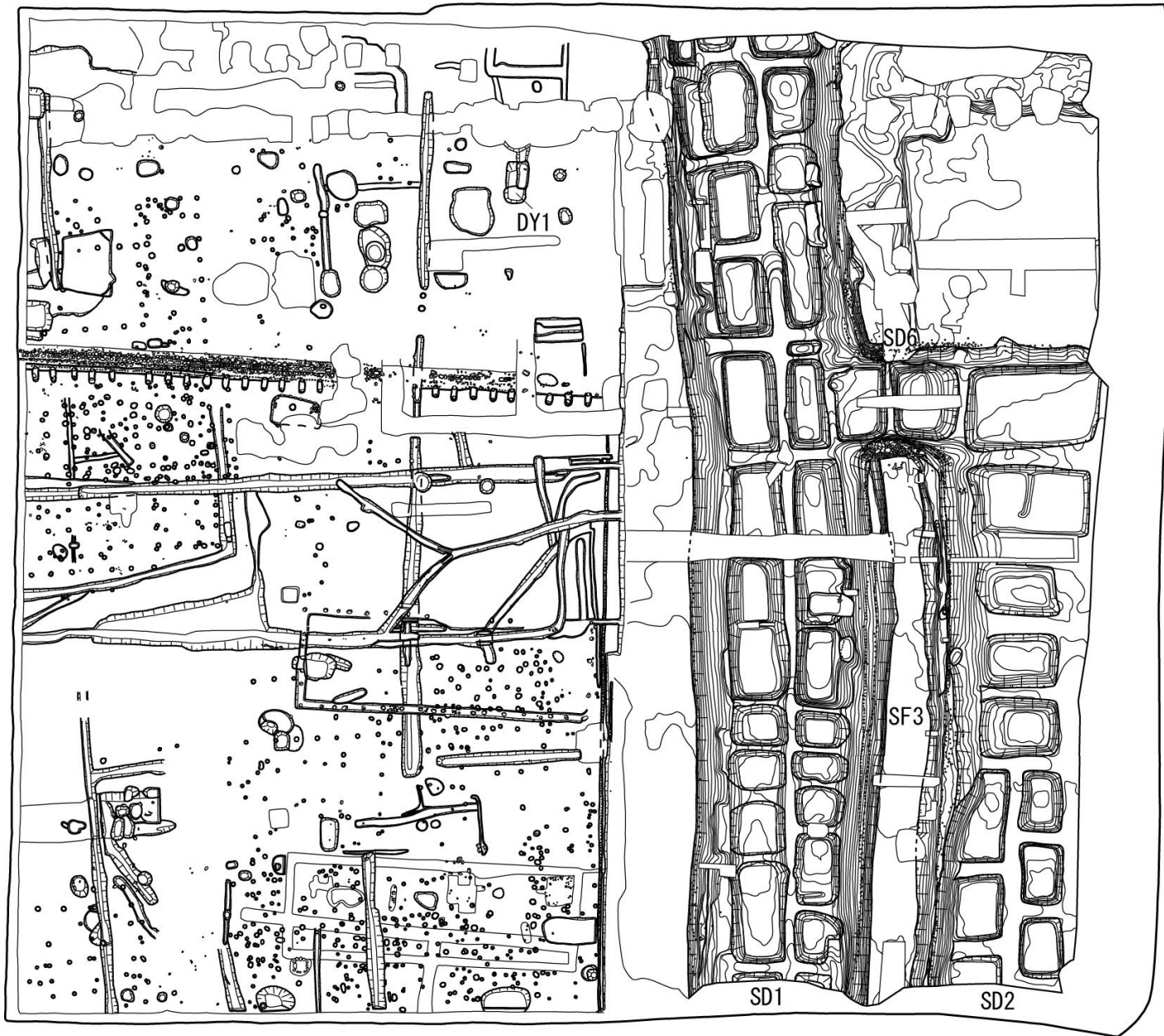
バイ (しもく)



青磁 (花瓶など)



仏具の飾金具など



0 (S=1/800) 20m

伝国の杜建設地の調査区全体図



平成12年度調査区

教王院 DY1

蓮蔵院 大乘寺 DY10

善性院 安養院

彌勒院 浄福院

法性院

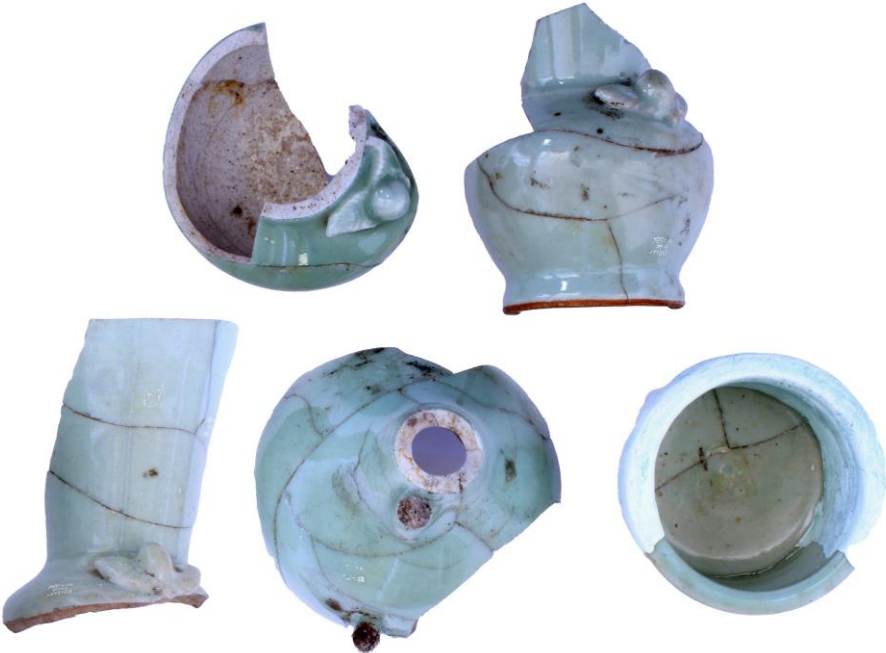
宝蔵院

寛政3年（1791）御城内明細御絵図

※円明院無し

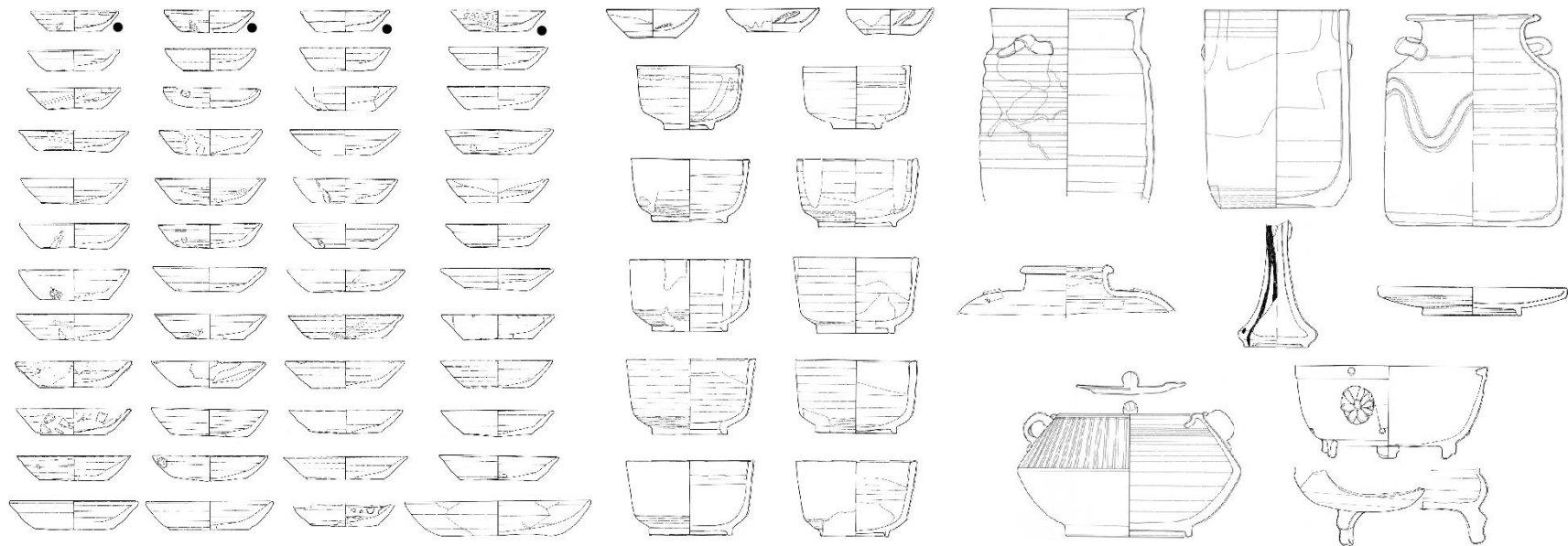


DY1土坑調査状況



DY1土坑出土遺物

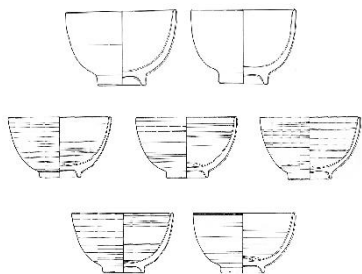
DY 1 土坑出土遺物の中心は、17世紀後半から18世紀初めのもので被熱がみられるものが多い。



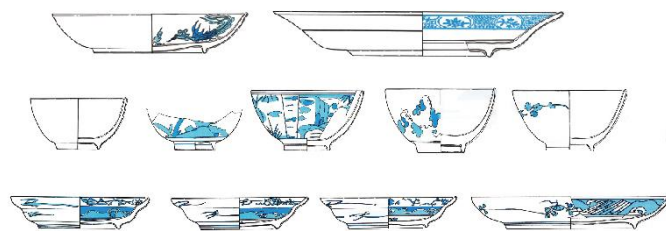
かわらけ

岸系

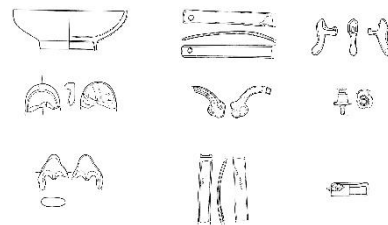
岸系ほか



肥前



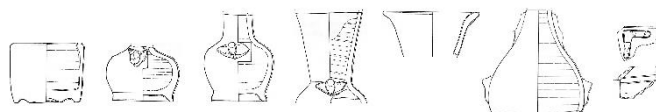
青花・染付



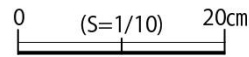
挽物・金属製品



相馬



青磁

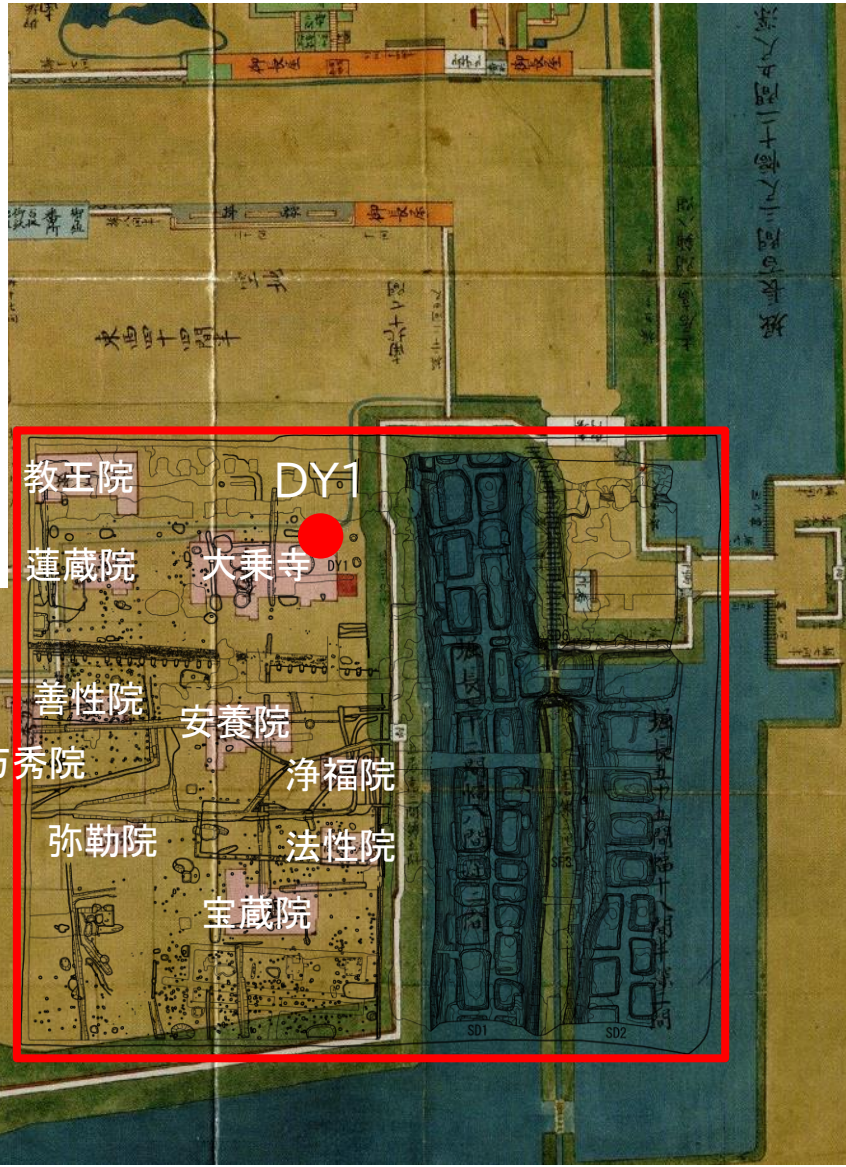


●は金箔かわらけ

16世紀後半から17世紀初めに米沢城内で起きた火災

- 延宝2年 (1674) 2月28日 大乘寺
- 天和元年 (1681) 11月10日 蔵王堂
- 元禄6年 (1693) 5月24日 金剛寺
- 元禄15年 (1703) 7月4日 大乘寺
- 宝永2年 (1705) 閏2月16日 御厩
- 享保3年 (1718) 3月28日 延寿院・法音寺・靈仙寺
- 元文元年 (1736) 9月26日 大乘寺

※米沢市史近世編より

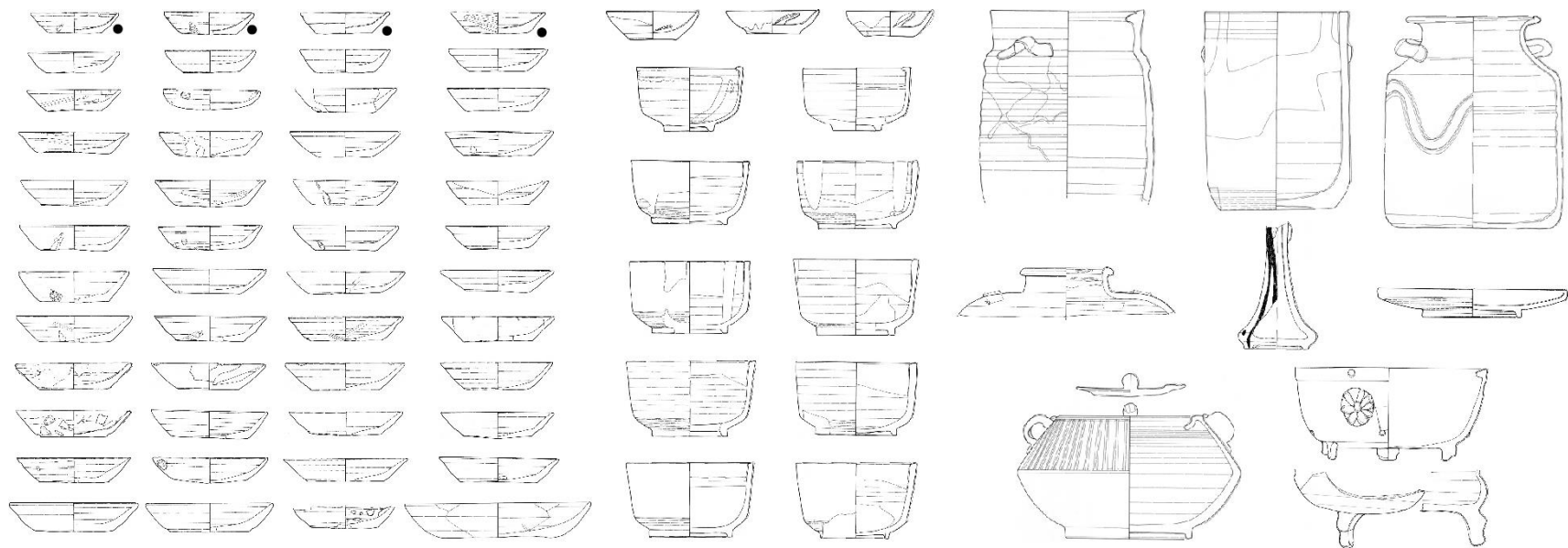


寛政3年 (1791) 御城内明細御絵図

※円明院無し

DY1 土坑出土遺物は、元禄15年（1703）7月4日に発生した大乘寺の火災後に廃棄されたものか。

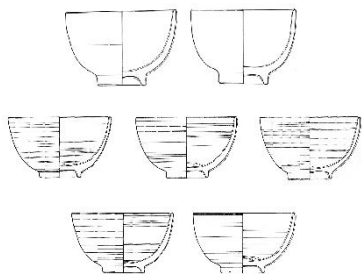
≡これらは大乘寺にあった品々で、金箔かわらけも含まれている。



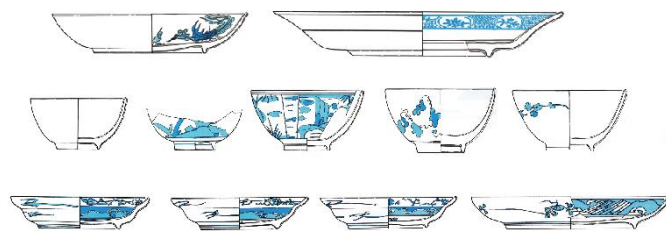
かわらけ

岸系

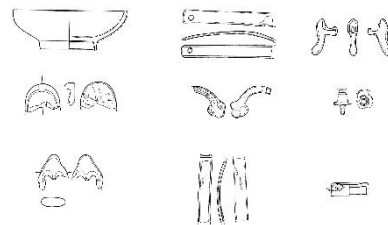
岸系ほか



肥前



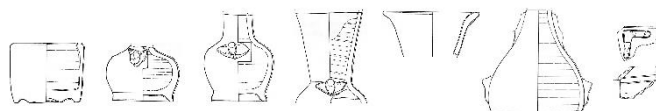
青花・染付



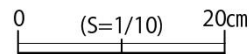
挽物・金属製品



相馬



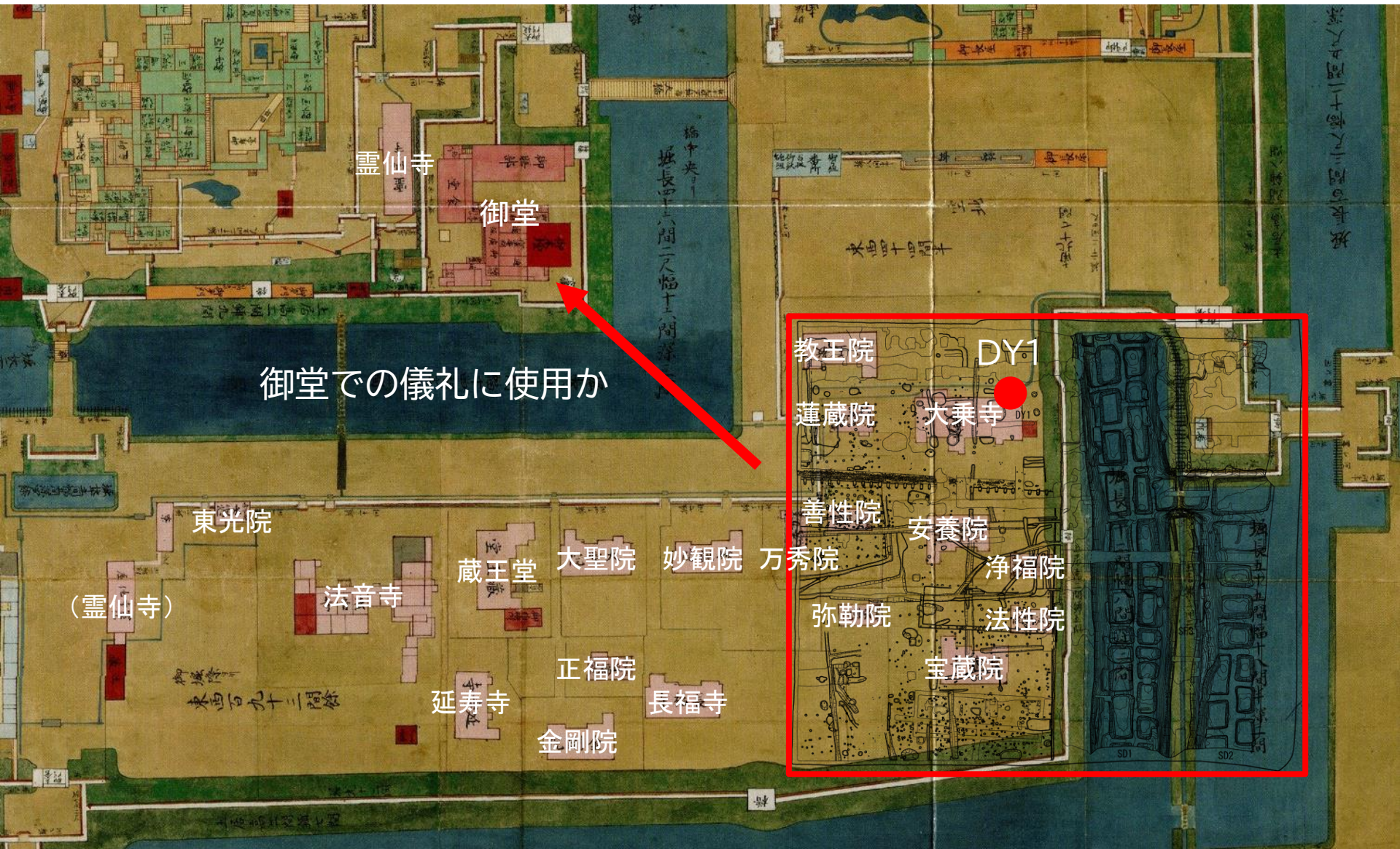
青磁



●は金箔かわらけ



朝鮮通信使饗応膳 福岡県新宮町教育委員会蔵



御堂での儀礼に使用か

教王院 DY1

大乘寺 DY10

蓮蔵院

善性院

安養院

浄福院

弥勒院

法性院

宝蔵院

蔵王堂

大聖院

妙観院

万秀院

正福院

長福寺

金剛院

東光院

法音寺

(霊仙寺)

延寿寺

東西九十二間

水西十四間

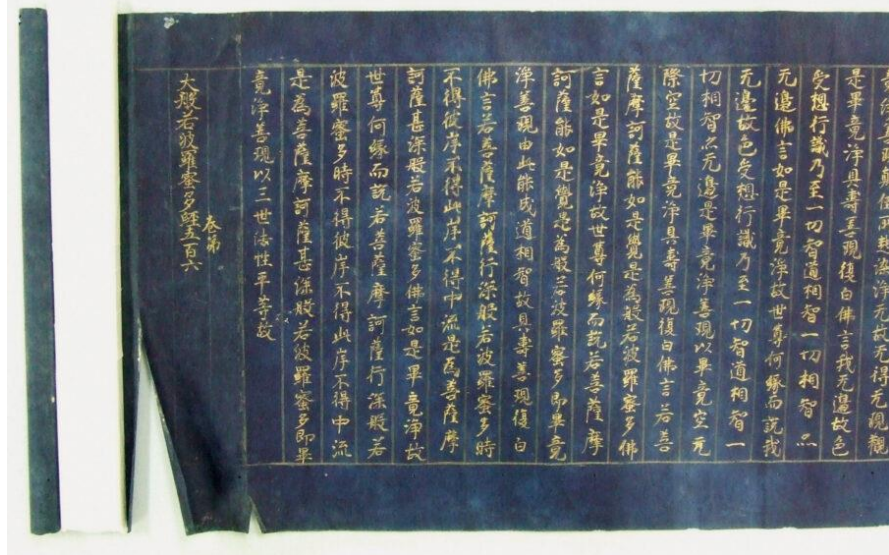
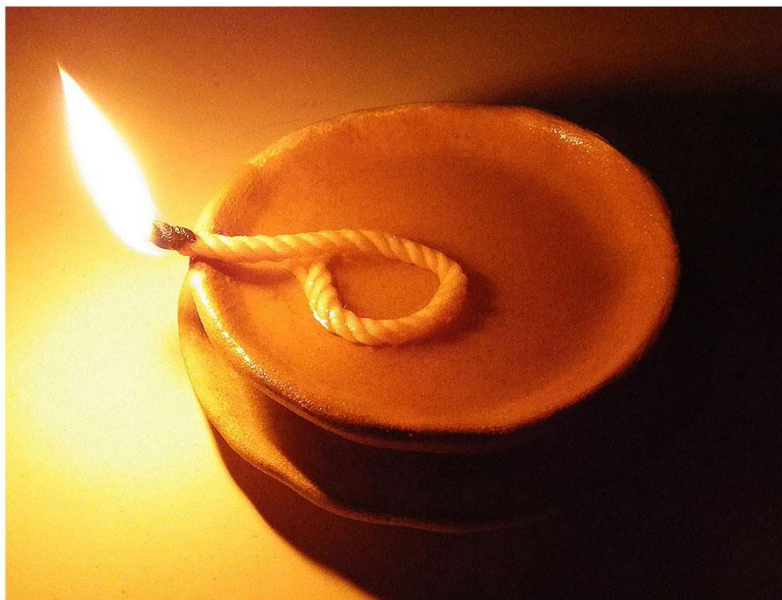
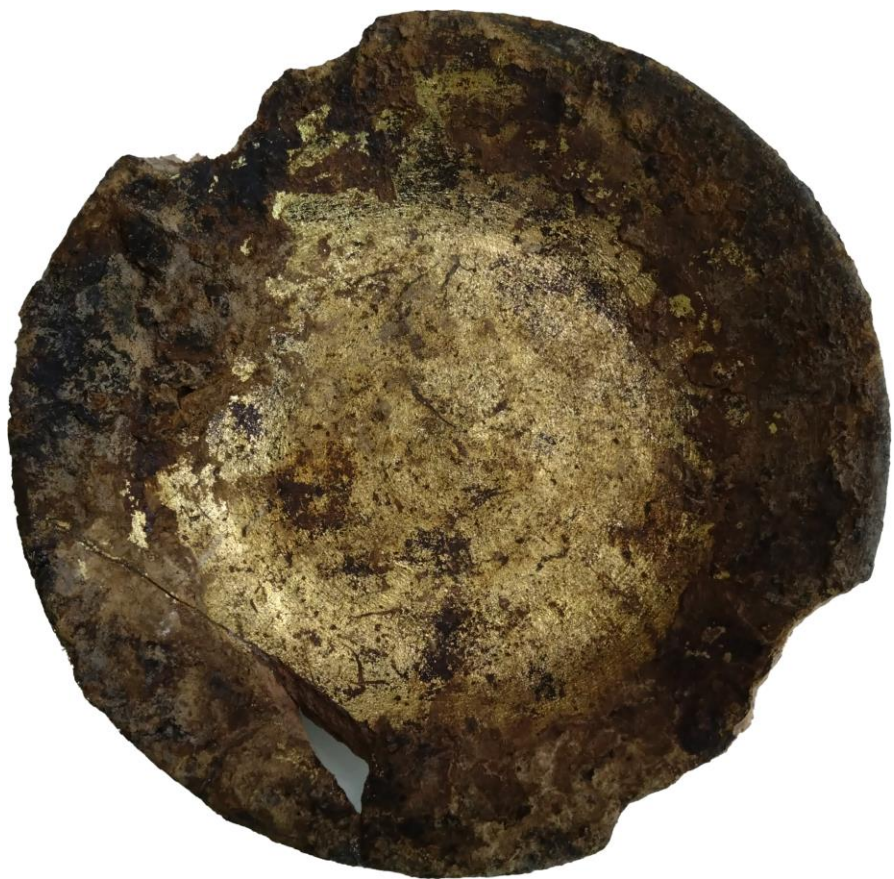
橋中央
堀長四十八間二尺幅十一間深

霊仙寺

御堂

※円明院無し

寛政3年（1791）御城内明細御絵図



金箔かわらけを燈明皿に転用

パレット？

本日のまとめ

古志田東遺跡：平安時代の豪族居宅における水辺の祭祀

大南遺跡：室町時代の屋敷地におけるカミとホトケの混在

上浅川遺跡：戦国時代の屋敷地における祭祀、大南遺跡との類似性も

米沢城跡：江戸時代の二の丸寺院における上杉謙信と歴代藩主への奉仕、聖域としての意識

米沢だけで見ても各時代で多様な信仰の在り方